

「大学生のためのお金の教室～ガマンして貯金しないとダメ？」

ファイナンシャルプランナー 江尻正幸

新年明けましておめでとうございます。本年も何卒宜しく願い申し上げます。

さて、4月から社会人になる方は、そろそろ準備が本格化してくるころではないでしょうか。

新居や寮への引っ越しの準備、スーツや靴の新調などを通じて、身の引き締まる思いがしていることでしょう。

一方、「社会人としてお給料をどのように使うべきか」ということも考える時期です。今回は、将来に漠然とした不安を抱いている方からのご相談です。

【質問】

お給料の使い方について悩んでいます。

個人的には、仕事につながる勉強や、友人との付き合いを大切にすることはもちろん、海外旅行やダイビングといった趣味も楽しみたいです。

しかし、将来がなんとなく不安で希望が持てないので、とりあえず貯金をすべきなのかな、とも考えています。

付き合いや趣味をガマンしてお金を貯める努力をすべきなののでしょうか？

(森さん 4月から社会人になる大学4年生 貯金残高2万円)

【回答】

将来に不安しか抱けないため、やりたいことをガマンしてお金を貯めた方がよいと考えてしまう20代の方はたくさんいらっしゃいます。

しかし、たった一度のあなたの人生を、お金のために生きる必要はありません。勉強・付き合い・趣味などを存分に楽しむための手段としてお金を稼ぎ、貯めるという考え方を持つとよいでしょう。

これから、極端な2つのケースを提示します。ここから、何を学べるか考えながら読んでみてください。

《ケース1 毎月5万円を貯金したら・・・》

将来に漠然とした不安を抱いているので、森さんはいろいろなことをガマンして残せる最高額（5万円）を毎月貯めることにしました。

このとき、社会人2年目には100万円の貯金を達成でき、病気・怪我などにかかる急な出費にもある程度耐えられる経済的体力を備えられることとなります。

しかし、趣味を楽しむことができず、友人と会う機会も減らしているため、リフレッシュがうまくできないかもしれません。

また、自己研鑽にもお金をかけていないので、仕事の実績も伸び悩み、どこでも稼げる実力が身に付かない可能性も孕んでいます。

《ケース2 貯金をせず、毎月やりたいことにお金を使う》

森さんは、貯金はしないと決めました。

やりたいことに対してはもちろん、自身の成長に役立つと感じたことにも積極的にお金を使うように意識しています。

こうすることで、視野が広がり、仕事や私生活が充実すると考えているのです。

一方、急な出費に対応できずに困ることがあるでしょう。

また、趣味や自己投資に熱が入りすぎ、キャッシングやカードローン、内容が不透明な金融商品に安易に手を出してしまわないよう注意が必要です。

● ‘貯金’ に対する考え方

これらから学べることはなんでしょうか？

それは、「貯金をするならば、目的を持とう」ということです。

ケース1では、貯金自体が目的となってしまっています。

もちろん、貯金残高が増えていく通帳を眺めることが趣味ならば結構です。

しかし、そうでないならば、将来への漠然とした不安によってとにかく貯金をするよりも、その不安を解き明かしたり、何が起きても大丈夫なように自身の実力を磨き、交友関係を維持・開拓したりするほうが賢明です。

また、ケース2では、お金が足りないがために借金をしてしまうことに触れています。

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2013 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

これは、事前にいつ・どのくらいお金が必要になるかを把握し、準備をしていれば済む問題です。

不慮の事故などによる出費に対して心配を抱いているならば、毎月1万円でもいいので貯めて備えましょう。

このように、貯金することを目的にせず、「いつまでに、いくら、何のために」お金を準備すべきかを明確にしてから貯金をスタートさせるならば、ストレスも少ないでしょう。もちろん、将来に対して自分は何を不安がっているのかについても考えると、視界がより一層クリアになります。

この点を年初に考えることで、マネー面においても2013年を充実したものにしていきましょう。

《こんなとき、どうすべき?》

将来が何となく不安・・・ 希望が持てない・・・	まず、何が不安なのか考えてみましょう。 年金でしょうか?それともお給料?はたまた日本財政? 不安の原因が判明すれば、あとは対策を練るだけです。
お金がかかる趣味が たくさんある・・・	いつまでにいくら必要なのか、そして目標額を達成するためには何ができるかを調べます。 すぐにお金を借りることは避けましょう。
こういったことを自分で 調べられない・・・	自分の意見を押し付けることがなく、あなたの価値観を尊重したアドバイスを提供してくれそうなFPに相談しましょう。